

(様式 3)

農業研究成果情報 No. 879 (令和元年 (2019 年) 5 月) 分類コード 02-09 熊本県農林水産部

温州ミカン「熊本 EC11」は開花期の芽かきおよびジベレリン処理を行うと着果率が向上する

温州ミカン「熊本 EC11」は、開花はじめに側枝の背より発生した強い春梢の芽かきに加えて満開 3～5 日後にジベレリン 25ppm を散布することで、着果率が向上する。

農業研究センター果樹研究所常緑果樹研究室 (担当者: 三原 崇史)

研究のねらい

本県で育成した温州ミカン「熊本 EC11」は、12 月上旬に成熟し、高品質で食味が良く、浮き皮の少ない中生温州で、お歳暮時期の贈答用ミカンとして期待されている。

しかし、「熊本 EC11」は新梢が多く発生し、生理落果しやすく着果が不安定なことや隔年結果が懸念されることから、着果安定のための栽培技術の確立が必要である。

そこで、着果率の向上を図るため開花期の芽かきおよびジベレリン処理による効果を明らかにする。

研究の成果

1. 開花期 (満開 3～5 日後) にジベレリン 25ppm (以下、ジベレリン処理 (GA)) を散布することで、無処理に比べ着果率が向上する (図 1)。
2. 側枝 (着果部位) の背より発生した強い春梢の芽かき処理は、無処理の着果率とほぼ変わらない (図 1, 2)
3. 開花期に芽かきとジベレリン処理を行うことで、ジベレリン処理のみより着果率が高まる (図 1)。

普及上の留意点

1. 本成果は、着果開始 1～3 年目の着花数が少ない若齢樹で調査した結果である。
2. 芽かきは、側枝 (着花部位) の背より発生した 20cm 以上の強い新梢を開花前に芽かきする。

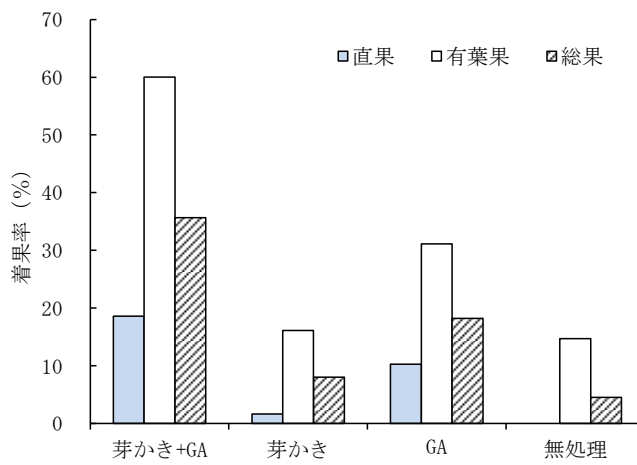


図1 「熊本 EC11」における芽かき、GA 処理が着果率に及ぼす影響 (2018年)

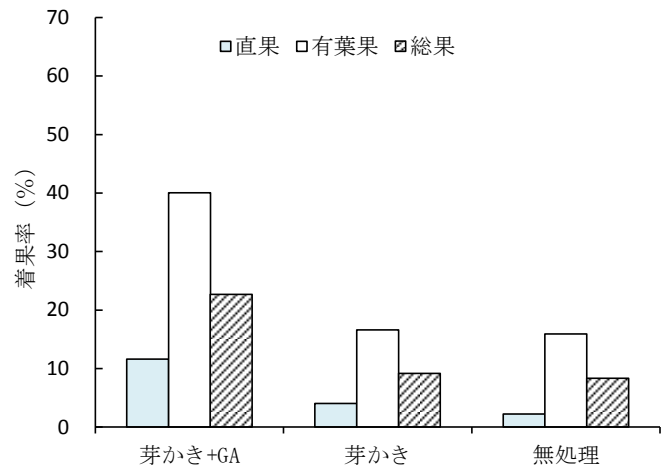


図2 「熊本 EC11」における芽かき、GA 処理が着果率に及ぼす影響 (2016、2017、2018年の3カ年平均)

注) 着果率は枝先 50cm を調査 (1本/1樹の5反復)

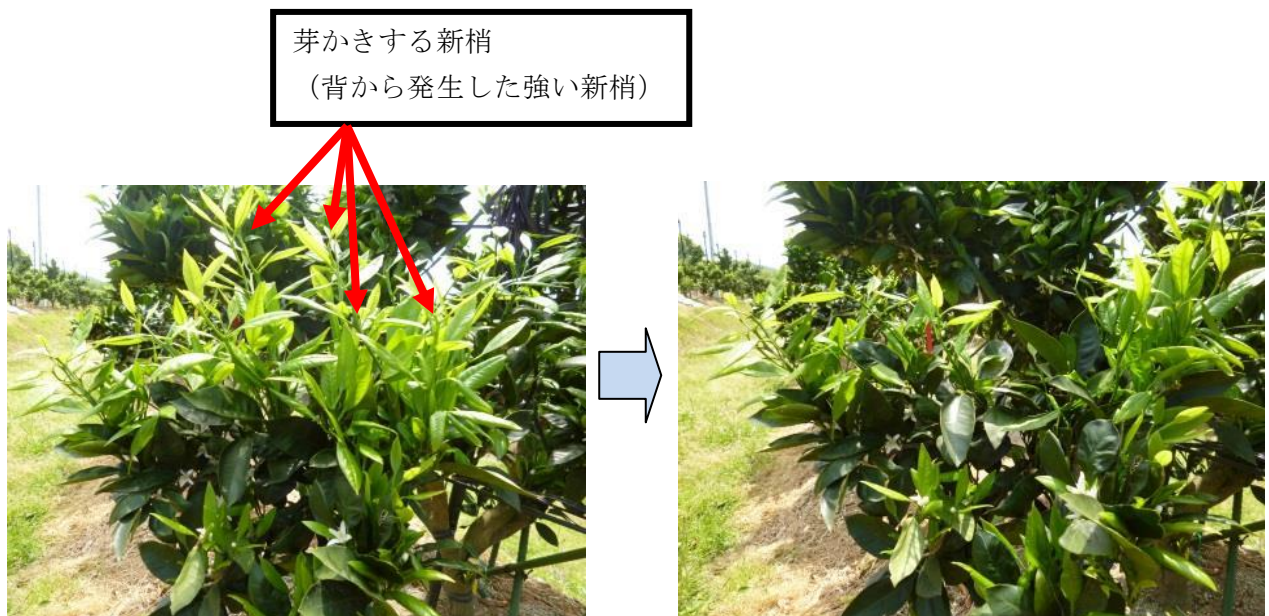


写真1 芽かき前後の状況 (左: 芽かき前、右: 芽かき後)